

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	CDM の長期的視点 Long Term view of the CDM
主催	IETA、経済産業省 (METI)
日時	2004 年 12 月 14 日(火)10 時 ~ 12 時
主要討論者	<ul style="list-style-type: none"> • Hiroshi Yamagata (Ministry of Economy, Trade and Industry; METI, Japan) • Andrei Marcu (International Emissions Trading Association; IETA) • Jurgen Salay (European Commission) • Xuedu Lu (Department of Rural and Social Development, Ministry of Science, and Technology, China) • Marcela Main (CONAMA, Chile) • Cédric Philibert (IEA Energy and Environment Division) • John Drexhage (IISD)
傍聴者	約 40 人
目的	現在の CDM プロジェクトの問題点を挙げ、ポスト 2012 年の新しい CDM の枠組みについての提案を行う。
発表の概要	<ul style="list-style-type: none"> • 現在行われている CDM 事業の現状をレビューし、CDM プロジェクトが抱えている問題点を考える。 • ポスト 2012 年の新しい CDM 事業の枠組みについて、COP11 で行う予定である日本の提案（経産省としての見解ではなく、山形氏の個人的意見であると前置きしてある）について、今後の流れとについての概要の紹介を行う。
主要な論点	<p><Cédric Philibert></p> <ul style="list-style-type: none"> • CDM を行うことによって低コストで GHG 排出削減を行うことができ、発展途上国の持続可能な開発に寄与することができるというメリットがある。 • 一方で高い取引費用、リーケージと競争 (competitiveness) などの心配がある。 • 将来の CDM は広範なセクターや国が関与し、ユニラテラルに資金を準備された CDM となる。また削減目標のないものとなる。さらに附属書 国とそうでない国々の間でより強いつながりが必要である。 <p><Hiroshi Yamagata></p> <ul style="list-style-type: none"> • インセンティブがキーワードである。 • CDM の問題点として、発展途上国で CO₂ 排出が急激に増加しているのも関わらず CER が少ないこと（エネルギー保全、再生可能エネルギーなどが挙げられるが、これは追加性の証明が難しいからである。 • HFC-23、N₂O、CH₄ の CDM プロジェクトはエネルギー関連の CDM プロジェクトに比べて経済的に魅力があるので、大規模な HFC-23 と N₂O プロジェクトが利用された後には CDM が少なくなるだろう。また先進国にとっては削減目標達成の利益があるが、途上国にとっては限られた利益しかないプロジェクト（HFC-23 のプロジェクトなど）がある。 • 次の CDM の枠組みでは途上国がエネルギー保全、再生可能エネルギーを促進するためのインセンティブを与えるものであるべきであり、国際的な議論が必要である。

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<ul style="list-style-type: none">・ 新しい CDM のワークプランとして、以下の手順を考えている（山形氏個人的見解）<ol style="list-style-type: none">1. COP10 のサイドイベント（METI ”Sustainable future framework beyond Kyoto”、METI-IETA ”Long term views of the CDM”）を開催し、アイデアを求める。2. 2005 年 3 月にワークショップ”CDM in the Post-Kyoto Regime”を開催し、共通の問題意識を共有し、インセンティブメカニズムのアイデアをためる。3. そのアイデアをレビューし、2005 年夏に会議を開催する。ここで新メカニズムを発表し、結果を評価する。4. COP11 でポスト 2012 年の提案を行う。
資料	なし

文責：井上 智尊